

幼児教育センターは、就学前から小学校教育へつなぎます。

幼児教育センター

TAKARA 宝っこだより 21

平成 31 年 (2019 年) 3 月

切れ目のない支援を！

いよいよ 3 月、進学・進級を目前に各幼稚園・保育所（園）では、一人一人の子どもの育ちを振り返り、自園の保育・教育活動の評価を行っていることと思います。

さて、幼児教育センターでは、保幼小中特別支援学校が中学校区ごとにめざす子ども像を共通理解しながら一貫した指導が行えるよう「保幼小中プロジェクト委員会」を設置し、連携の推進を図っています。委員は、公私立幼稚園・保育所（園）・小中特別支援学校の代表校園所長・中学校区ごとの代表者によって構成されています。2 月 28 日、本年度のまとめの会を実施しました。その中で、甲南女子大学の伊藤篤教授から「虐待と貧困」にポイントをおいてお話をお聞きしました。

（伊藤篤教授より）

①切れ目のない支援は、「経済的困難」と「発達の遅れ・歪み」に焦点化する

子どもは生まれてくる家庭を選べない、子どもは自分の発達特性を選べない。こうした選べないものによって、健やかな育ちが保障されなくなる。（現状）



保育士・幼稚園教諭・小中学校教諭間だけの連携の支援だけでは難しい。だからこそ、子どもを取り巻く大人、**保育士・教師・ソーシャルワーカー、保健関係者、地域のリーダー**で支援していかなければならない。

②青年期や成人後の生活の安定度（幸福度）は、「非認知能力」に支えられている。

③校種間の連携は、「個別の教育支援計画」が鍵となる。

就学前は、15のブロック別を基盤に「つながろう！プレ1年生！！」や連携園所の「合同研修会」等を通して関係性が構築され、つながりも太くなりつつあるなど実感しています。就学前で大切にしている「非認知能力」つまり、忍耐力・自己抑制力・社会性・思いやり・自尊心・自信など**目に見えない力**を育成することは、将来の幸福につながることをあらためて確認すると共に、就学前教育の重要性を実感しました。また、特別支援を必要とする子どもの校種間連携では、「**個別の指導計画**」や「**個別の教育支援計画**」をもとに校種間でつながっていくことが大切であることも再確認できました。

来年度も、近隣の公私立幼稚園・保育所（園）の横のつながりを基盤に、小中学校との縦のつながりを深め、子どもの健やかな育ちをつないでいきたいと考えています。

来年度もよろしくお祈いします。

【参照】

「個別の指導計画」…指導を行うためのきめ細かい計画

「個別の教育支援計画」…他機関との連携を図るための長期的な視点に立った計画 一人一人の障がいのある子どもについて、乳幼児期から中学校卒業後までの一貫した長期的な計画を学校園等が中心となって作成。作成に当たっては関係機関との連携が必要。また、保護者の参画や意見等を聴くことなどが求められる。

もうすぐやってくる **11日**にはぜひぜひ、ほめほめシャワーをお願いします！

宝塚市教育委員会 幼児教育センター TEL：0797-77-2132

